

最新 2025 年 4 月号より抜粋

第 17 回会員代表大会 開催準備スケジュール発表

会員代表選挙委・理監事選挙委の委員長決まる

廣東同郷会新会長に朱銘江氏 副会長には符順和、徐永賛、尹星の三氏

三八国際婦女節記念講演「孫文と日本と華僑」

清明に先人を偲ぶ

廣東同郷会春季温泉旅行を挙行政

要明鶴スキー開催

15 届の卒業生喜寿の会を開く

31 届還暦同窓会 開催

日中婦人連絡会 3・8 に参加

64 回旅日福建同郷会懇親会 開催

華文教育の「新たな 100 年」を目指して 177

訃報

横浜華僑総会第 17 回会員代表大会 開催準備スケジュール発表

3 月 13 日（木）に開かれた横浜華僑総会全体理監事会で第 17 回（2025 年 7 月～2027 年 6 月）会員代表大会に向けた準備スケジュールが決議された。

開催準備スケジュール

会員代表大会：

7 月 2 日（水）

18：00～

ロイヤルホールヨコハマ

3 月 13（木）

全体理監事会日程・委員構成確認

会員代表選挙委員会委員選出

理監事選挙委員会委員選出

4 月 14（月）16：30

三役会

常務理事会

会務報告の起草（各部会）

活動方針の検討

4月21（月）17：00

第1回会員代表選挙委員会開催

委員長、副委員長選出

会員代表選挙弁法

4月21（月）18：00

第1回理監事選挙委員会開催

委員長、副委員長選出

理監事選挙弁法

5月15（木）19：00

全体理監事会（各部の総括）

5月16（金）18：00

各僑団代表懇親会

会員代表選挙立候補受付

5月17日（土）～6月9日（月）

理監事選挙立候補受付

5月17日（土）～6月9日（月）

6月上旬

活動方針立案・政策方針案立案

6月3日（火）16：30

三役会 常務理事会

17：30 第2回会員代表選挙委員会

18：30 第2回理監事選挙委員会

6月19日（木）

三役会 常務理事会

全体理監事会（最終総括）

7月2日（水）18：00

会員代表大会

大会／午後6時～7時30分

懇親会／午後7時30分～9時

会員代表選挙委 理監事選挙委の委員長決まる

4月21（月）開催の第1回会員代表選挙委員会で陳亮委員長、鄭民財副委員長が選出された。

同日に開かれた第1回理監事選挙委員会で林偉珊委員長、安齊民穂副委員長が選出された。

廣東同郷会新会長に朱銘江氏 副会長には符順和、徐永贊、尹星の三氏

一般社団法人廣東同郷会は3月1日（土）に第30届最後になる3月度の「理事監事連席会議」を開いた。この日、2月15日（土）に開票作業が行われた、第31届理事監事選挙の結果を受けて選出された新理事15名による互選で正副会長を選出する選挙を行なった。

その結果、次期会長には新たに朱銘江氏が当選し、副会長に符順和・徐永贊・尹星の三氏がそれぞれ選出された。

同会定款の定めにより、新年度に開かれる2025年度の社員総会（会員大会）を経て新体制が正式に発足する。

朱銘江氏は、次期会長に当選したことを受け、現会長の陸煥鑫氏が30余年にわたり同郷会のトップとして多大な貢献をされたことを称え、その労をねぎらい、心からの感謝の意を伝えた。

また、朱銘江氏は会長就任にあたり、新たに発足する理事会のメンバーに向け、「継往開来、任重道遠」【注】の八文字にその思いを託し、会務に精励し、共に会を盛り上げ、今秋に控えた同郷会創設60周年の祝典を成功させるために頑張ろうと呼びかけた。

朱銘江氏は1965年生まれ、奇しくも廣東同郷会と同じ年に誕生している。

廣東同郷会は日本の高度成長期と重なる1965年に社団法人の法人格を得た先駆的な僑団で、今年で創設60周年を迎える。

信義に厚く、堅実かつ実直な気質を持つと言われる広東人の「務実包容（実務的で包容力がある）」の精神は、廣東同郷会でも脈々と受け継がれている。新たに発足する理監事会の構成メンバーも新老華僑が見事に融合した布陣となっている。

一般社団法人廣東同郷会第31届理事監事選挙結果

会 長／朱銘江

副会長／符順和、徐永贊、尹星

理 事／孔潔貞、陸煥鑫、潘民生、林沛通、羅博英、黃興齊、梁啓成、郭学恒、羅清福、胡偉良、伍国群

監 事／余婉齡、夏東開、任鎮東

※なお、幹事、各理事の役割分担並びに名誉職については後日別途発表される予定。

【注】「継往開来、任重道遠」前人の事業を受け継ぎ、将来の発展に道を拓き、任重くして、行くべき道は遠い。



新会長から花束を受け取る前会長



新理監事メンバー

三八国際婦女節記念講演

"孫文と日本と華僑"

2025年3月10日、横浜華僑婦女会は、林伯耀先生をお迎えして、講演会を開催しました。神戸からお越しいただき、ご高齢にもかかわらず、しっかりとした口調で、ときどき、ユーモアをまじえながら、語ってくださいました。孫文が日本に期待してアジア大同を唱えましたが、その後、満州事変（柳条湖事変）、盧溝橋事件などを起こして、日本は、中国への侵略戦争に踏み切った…。歴史に「もし」はない。けれども、「もし、孫文の期待通りアジアが団結していたら…」全く違う世界があったのだらうと思うと感慨深いです。関東大震災の話も貴重でした。NHKの映像もみて、聞いたことはありましたが、詳細を知るのは初めてでした。遺族を思うと、なかったことにしてほしいでござりました。

私は日本生まれですので、日本は、故郷であると思っていますが、日本の報道や、偏向した歴史教育には、疑問に感じています。我々が、しっかりと継承していかないとならないと思いました。林先生より、婦女会へ本も寄贈していただきました。この機会に、読んでみるのは、いかがでしょうか。

講演会終了後、会場を金香楼に移して懇親会を開催しました。懇親会には、林先生と一緒に、関東大震災のデマで、鶴見で被害に遭った華僑の家族を探す活動をしている方も参加され、私たちにも何か手がかりがあったらお願いします。というお話をいただきました。

(婦女会 文化部 何優)



清明に先人を偲ぶ

桜が満開となった今年の清明節、4月5日（土）午前11時から公益財団法人中華義荘は横浜市中区大芝台の地藏王廟にて恒例の供養式を行った。横浜華僑総会からは謝成發会長が参列した。

廣東同郷会や廣東要明鶴同郷会などもそれぞれ供物を備え、会の役員らが集い、先人を偲んだ。

週末と重なり、この日は多くの参拝者が家族連れて墓地を訪れ、それぞれの先祖の墓に詣で、線香を上げ、花をたむけ冥福を祈った。

また、昨年の清明節以降に安骨堂に安置された白木の位牌が、遺族らによりお焚き上げされた。



廣東同郷会春季温泉旅行を挙行

3月23から24日にかけて、一般社団法人廣東同郷会（陸煥鑫会長）は千葉県鴨川市へ1泊2日の温泉旅行会を挙行了。これには同会の会員とその家族ら約100人が参加した。3月23日参加者は宿泊地である鴨川グランドホテルに三々五々到着し、夕食までの時間、館内の温泉に浸かったりホテル前の海岸を散策したりと、思い思いの時間を過ごした。

午後6時、ホテルの大広間に全参加者が集い記念写真におさまり、続いて宴会が開かれた。

冒頭、挨拶に立った陸会長は、このようにたくさんの会員と家族が集まって、温泉旅行を行うことができたことを大変嬉しく思うと述べた。また、符順和副会長から先ごろ行われた同会の役員選挙の結果について報告があり、新たに朱銘江副会長が次期会長に選出された事と、尹星理事が副会長に選ばれたことが報告された。

宴会の後半では、カラオケに興じる者や、同会の文芸サークルのメンバーらが宴会場のステージに上がり、得意のダンスを披露するなどして楽しいひとときを過ごした。



要明鶴スキー開催

廣東要明鶴同郷会（陸佐光会長）は3月26、27日に1泊2日で青年部主催のスキー旅行を開催した。

今回で8回目の開催となり総勢58名が参加した。

今回の目的地もお馴染みの上越国際スキー場ホテルグリーンプラザ上越を選んだ。

参加者は想い通りに雪遊びや温泉を楽しみ、夜には恒例の宴会とカラオケ大会で盛り上がり懇親を深めた。

（要明鶴）



15 届の卒業生喜寿の会を開く



4月 17 日（木）桜が散った暖かい日差しが降り注ぐ中、横浜山手中華学校 15 届生の喜寿を祝う会が、中華街の獅門酒楼にて総勢 21 名の参加者のもとで開かれた。

久しぶりに会う友、卒業以来約 60 年ぶりに会う友など。みんな元気で再会できたことに喜び、懐かしい旧友と会い、涙ぐむ友もいた。

美味しいお料理に舌鼓を打ちながら、学校時代の昔話、またはこの歳でつきものの病気の話しなどで、あっという間に 3 時間が過ぎてしまった。折しもマカオから日本へ一時帰国していた友も参加し、「ぜひみんなでマカオに遊びに来て」と呼びかけられ、老後の夢はさらにふくらんだ。

会の終わりには、毎日元気で楽しく過ごし、健康に気を付けて来年もまた会おう!と約束して和気あいあいと残惜しい気持ちでお開きとなった。中華学校 15 届生（潘蘭英）

31 届生還暦同窓会 開催

3月 4 日横浜中華街「桂宮」にて山手中華学校 31 届還暦同窓会を開いた。

早いもので母校を卒業し 45 年の歳月が流れ、クラス全員が 60 歳を迎える 3 月に開くことに決め、数年、数十年、卒業以来 45 年ぶりに再会したクラスメート 13 名が集まり、遠路岩手から、そしてニューヨークからの参加もあり、一瞬時が止まったかのような在校時の話、それぞれの近況を語り合い、また会おうね!と次回の再会を約束し、懐かしいひと時を過ごした。



日中婦人連絡会 3・8 に参加



日中友好神奈川県婦人連絡会（梅沢栄子・番場明子共同代表）が 3 月 8 日開催した 50 周年記念のつどいに符順和華僑総会常任理事が祝辞を述べた。また、当日のつどいには華僑婦人会から多くのメンバーが参加した。

64 回旅日福建同郷懇親会 開催

第 64 回旅日福建同郷懇親会福清大会（幹事地区神戸）が4月3日（木）からの3日間、故郷の福清市で約 300 名を集めて開催された。開会式歓迎パーティ、合同撮影、華僑博物館見学、黄檗山（おうばくさん）万福寺参拝、平潭海洋公園散策、故郷訪問など盛りだくさんのスケジュールをこなし、久々のふるさとを楽しんだ。

なお、来年の 65 回大会は愛知・三重地区が幹事となる。



華文教育の

「新たな100年」を目指して 177

中華学校卒業式執り行われる

3月10日、山の手中華学校横浜校の2024年度卒業式が6階体育館で行われた。小学部79期生、中学部76期生の卒業を祝うため、小学部4年から中学部3年までの全生徒と教師が一堂に会した。各界からの来賓や卒業生の保護者も出席し、厳粛なひとときを見守った。今年は総勢138名の卒業生が新たな一歩を踏み出した。

張岩松校長が横浜山手中華学校の教師と生徒を代表してスピーチを行った。張校長はまず、ご来賓の皆様、保護者の皆様、華僑華人会の皆様のご臨席とご支援に深く感謝申し上げるとともに、本校の発展を長年にわたりご心配いただいている各界の皆様にご心よりお礼を申し上げた。

張校長はスピーチの中で、私たちは今日ここに集まり、小学部卒業生と中学部卒業生の成長と栄光を目の当たりにしていると述べた。また、1898年の創立以来、横浜山手中華学校は幾度かの再建を経て嵐を乗り越え、中国文化の継承という使命を常に堅持してきたと述べた。卒業生たちは同校で中国語と日本語のバイリンガル教育を受け、中国と日本の文化の真髄を学び、将来の成長のための貴重な財産となった。張校長は卒業生に「将来どこに行っても、どこにいても、横浜山手中華学院の卒業生であることを忘れないでください。ここは皆さんの母校であり、心の故郷です。常に母校に心を寄せ、母校の未来に貢献してほしい。また、中国文化と本校の素晴らしい伝統を翼に、勇敢に夢を追いかけて、羽ばたいてほしいと卒業生を激励した。

最後に、張校長は卒業生に祝福の言葉を送り、学業の成功と輝かしい未来を祈るとともに、在校生、保護者、来賓に感謝の意を表し、仕事の成功、健康、万全を祈った。

また、繆雪峰学園理事長も中学3年生に対し、高校に進んでも華僑華人精神を継承してくれることを期待し、どこにいても母校は彼らの心の拠り所であり、母校を大切に思い、この貴重な学校生活の時間を忘れないでほしい。また、横浜山手中華学院の卒業生であることは、アイデンティティであると同時に、責任と名誉でもあることを自身の経験を交えて卒業生たちに

激励した。横浜山手中華学校の素晴らしい伝統と精神を受け継ぎ、未来に向かって勇敢に夢を追い求め、中国と日本、そして世界を繋ぐ架け橋になってほしい」と激励した。



小学部 6 年 1 班



小学部 6 年 2 班



中学部 3 年 1 班



中学部 3 年 2 班

保育園小紅の卒園式

桜のつぼみが芽吹き始めた3月22日（土）、2024年度保育園小紅の卒園式が執り行われ2歳児小花猫クラス15名の子どもたちが、保育園小紅から新しい幼稚園や保育園に巣立って行きました。

当日は、横浜華僑総会副会長楊文恵様、横浜華僑婦人会会長黄巧玲様、横浜山手中華学園理事長 繆雪峰様、横浜山手中華学校校長 張岩松様、熊猫幼稚園園長 森田裕明様、横浜華僑小紅の会名誉顧問 劉燕雪様、理事長佐久間愛玲様、副理事長李香玳様にご来臨いただき、卒園児保護者の皆さまと共に子どもたちの成長した姿に大きな拍手を送って下さいました。

式典では、卒園児一人ひとり名前を呼ばれ修了証書を受け取り、保護者のもとへ渡しに行きました。卒園のうた「夢わかば」「思い出のアルバム」を全員で歌い会場は和やかな雰囲気になりました。（小紅）



同文、大同

一 僑校の校名 （上） 楊仕元

昨年（二〇二四年）、神戸中華同文学校は創立一二五周年を迎え、それをしおに横浜中華学校も創立一二六年になることを連想した。両校とも民国以前の清朝末期にできて、百二十年以上の歴史を刻んできたことに深い思いを致した次第である。

一八九九年五月、梁啓超が神戸の中華会館で開催された歓迎会での講演で、華僑子弟のための学校設立を提唱したところ、華僑有力者がその意を受けて学校設立を決め、一九〇〇年三月に校舎落成とともに、校名を「神戸華僑同文学校」として、犬養毅を名誉校長に迎えた。一方、横浜ではそれに先立つ一八九八年二月に、梁啓超、孫中山らに促されて、「横浜大同学校」を正式に開校した。

同文学校一二五周年祝宴の席上、張述洲元校長があいさつで、「同文」の由来は《礼記》にあると述べたのを手掛かりに、調べてみたところ、《礼記》の『中庸』篇に、「今天下、車同軌、書同文、行同倫」とありました。さらに、横浜大同学校の「大同」についても調べてみると、やはり《礼記》の『礼運』篇に「大道之行也、天下為公、選賢与能、講信修睦、、是謂大同」とありました。

そもそも《礼記》は、孔子の七十二人の弟子及びその教え子らによって著されたもので、西漢の戴聖が編集したといわれ、周王朝及び秦漢以前の政治典制、各種事物名称・制度ならびに冠礼、婚礼、葬礼、祭礼、宴飲、交際、朝拝、使節の友好国訪問などを包括した数多くの礼儀を記録しているもので、また、儒家の社会政治理念、天道と人倫の観念、心性修養の方法と準則などを深く詳しく検討している。

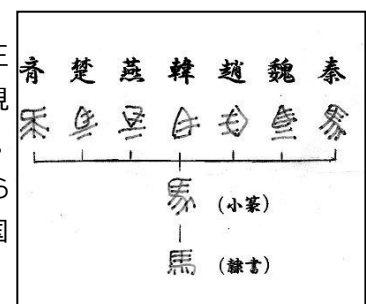
中庸の道について詳しく述べた第二十八篇『中庸』にある「今天下 車同軌 書同文 行同倫」というくだりでは、「車同軌」が指しているのは車両の両輪の幅であり、表向きは交通行政の統一を言っているが、本質は古代社会の政治的な大一統である；また、「書同文」は即ち文字の統一であり、古代社会の政治、経済、文化の発展を推進したのみならず、中華文明数千年の繁栄・発展にも影響を与えてきた；そして、「行同倫」は古代社会における衣食住行、風俗習慣や信仰など多方面の大一統を表し、古代社会での道徳基準と行為規範を確立して、社会を安定させ、古代社会数千年来の社会発展を維持してきた、というものである。

「車同軌」、「行同倫」をひとまず置いて、「書同文」の経緯を見てみよう。三〇〇〇年も前に、商（殷）王朝時代の人々が使っていた文字が現在見られる最も古い漢字であり、「甲骨文」と呼ばれている。商王朝の人々は相当に迷信深く、農業にとって重要な天候や土地争いで戦争になった場合の勝敗といった難問に出会うと、占トという手法で天神にうかがいを立てた。亀の腹側の甲羅の一定の場所に小さな窪みを掘り、熱した金属棒をそこに当てて、できるひびの形で吉凶を判断していた。備忘のために、うかがいを立てた内容と占トの結果をこの亀甲の上に刻み付けたのである。亀甲のみならず、牛や鹿の骨をも使っていたので、甲骨文といわけだ。

また、金文というのは、青銅器の表面に鋳込まれた、あるいは刻まれた文字を言う。青銅器はほとんどが商王朝末ごろから鋳造され始めたものだが、表面の文字は風格・体式とも甲骨文字とは異なり、商王朝で使われていた文字とは言っても、甲骨文字と同じものとは言えないので、金文と称された（金は青銅の意味）。周王朝の青銅器の出土数は商朝のものよりはるかに多く、現れた字数もかなり多くなっているので、周朝の文字は金文によって代表されるといってもよい。青銅器上の文字の大多数は鋳造の際に同時に鋳込まれたものである。

甲骨文であれ金文であれ、占トや青銅器鋳造には商王や周王のもとで専門衆が携わっていたので、文字の乱れは見られなかった。

ところが、春秋の終わり、戦国時代になると、各諸侯国はそれぞれ独自に振舞い、周王朝は統一の局面を保てなくなった。それが文字においても、それぞれ思い思いの情景が現れ、字形にも大きな違いが現れた。この段階の文字を今では「戦国文字」と称している。戦国文字は青銅器以外にも、玉器、陶器、印璽、銭幣に見られ、新中国になってからは竹簡、帛、さらに石の上に書写された戦国文字も発見されている。戦国末期の戦国七雄の時代でも、図に示すように馬を表す文字が七カ国ですべて見事に異なっている。



但し、ここからは筆者の偏見だが、韓、趙、魏三カ国の馬の字をよくよく見ると、似ているように思えないだろうか。それもそのはず、この三カ国はもともと覇権を握ったこともある晋という大国が内紛で分裂してできたもので、この「三家分晋」事件が春秋の終わり、戦国の始まりの潮目だとも言われている。

秦王朝がうち立てられた後、始皇帝は直ちに文字の統一を急務として、丞相の李斯、中書府令の趙高らに、文字の整理を行うよう命じた。李斯は秦国の文字を基礎としつつ、六カ国の文字を参照して、「秦篆」、または「小篆」と称するものを造った。この新しい文字は、秦国の政府筋の規範文字となるとともに、他の異体字は廃除された。日常生活では他にもう一種類の文字、隷書が使われた。隷書は篆書に比べると、相対的に簡略化され、小篆の丸みを帯びた線條が真っ直ぐに、そして四角張って、書写に都合よくなっている。この二種類の書体が全国に押し広められた。

《史記・秦始皇本紀》の記載によると、秦王朝が創立されてから、始皇帝は「一法度衡石（石高のコク） 丈尺、車同軌、書同文字を開始し、度量衡、文字、道幅、貨幣など経済、政治、文化、社会生活の多方面にわたる真の意味での大一統を完成させ、そうしてこの「車同軌 書同文 行同倫」の統一思想も真に確立された。これ以後、中国の歴史では統一と分裂を経ながらもこの統一思想は、数千年来途絶えたことはなかった。

これが「書同文」の由来でしたが、蛇足ながら、漢王朝に入ると、隷書はさらに進んで楷書と草書が現れ、さらに四角張った楷書を（草書ほどではないが）少々崩した行書が現在使われている。漢字は漢王朝にちなむものでした。（次号に続く）

訃 告

周富南先生

（横浜中華学校 14 届生、42 届 周雁貞、44 届 周雁美ご尊父）が 3 月 23 日ご逝去されました。

故人は生前、校友会において獅子舞の普及と発展に大きく貢献され、その功績は多くの後輩たちから感謝され、深く敬愛されていました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

楊仲清先生

（横浜中華学校 4 届校友生

横浜中華学校 26 届 楊仲峰、28 届 楊勝峰、31 届 楊清峰 ご尊父）が年 4 月 4 日ご逝去され葬儀は家族葬にて執り行われました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。